

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

| | |
|-----------|---------------------------|
| 学校名・団体名 | 松江市立乃木小学校 |
| コース | 学校支援コース |
| 活動・研究のテーマ | 特別支援教育の視点を生かした低学年期の学力の底上げ |

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 活動に至る経緯

本校は島根県最大規模の小学校で、校区内には松江市発達・教育相談支援センターや島根県立大学がある。これらの条件を鑑み、低学年期からの構内支援体制整備や読み書き困難児に対するICTの活用を含めた実践研究に取り組むための「まなびの部屋」が昨年度より設置され、取組を推進する「まなびコーディネーター（以下まなびCOと略）が配置された。そのまなびCOを中心として、低学年期におけるリスクマネジメントとして、読み書きの土台となる認知力や、それを支える体のレディネスを整えていくプロジェクトを年間通して行ってきた。

読み書きに時間がかかったり不正確だったりする児童をそのままにしていると、文字を読み誤るだけでなく文意がつかめない、語彙が増えないなど、学習理解に直結する困難が生じてくることがわかっている。低学年期にすべての平仮名が自動的に読み書きできる（低次の読み書き）ことにより、思考や理解、表現などの高次の読み書きに向かいやすくなることをねらっている。そして、二次的に生じる不登校や不適切な行動の予防も意図している。また、このプロジェクトの成果を松江市教育委員会と共に松江市内外に発信する役割も担っている。

2 活動・研究の目的

文字の読み書きを習得する低学年期に全体の底上げを図り、一定基準を超えさせることにより、その後の学校生活への不適応（極端な学力不振や不登校等）を減らす。

3 活動内容

【1年生 平仮名ぐんぐんプロジェクト】

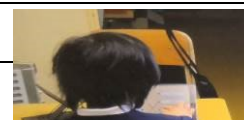
| 日時 | 全体指導・調査 | 読み書き困難児への指導 |
|--------------|--|---|
| 5月～6月 | 定点調査（書字姿勢映像・グッドイナフ人物画検査） 平仮名の読みアセスメント（直音） 姿勢体操・鉛筆体操・おへそシール 平仮名ぐんぐんプリント（年間通して） | |
| 7月～ 夏季休業中 | | 夏季休業中のデコーディング指導（34名） |
| 9月～12月 | 多層指導モデルMIMによる指導とアセスメント MIMデジタル版による教室での指導 平仮名の読みアセスメント（単音） | 給食準備時間を利用した取り出しでの「平仮名ぐんぐん教室」（MIMデジタルによる指導）（20名） ※大学と連携し学生も指導者として参加 |
| 1月～3月 | 定点調査（書字姿勢映像・グッドイナフ人物画検査） | 登校後の時間及び給食準備時間を利用した取り出しでの「平仮名ぐんぐん教室」（22名） （MIMデジタル・iPadでアプリを使った指導） |



MIM デジタルを使用した2学期の平仮名ぐんぐん教室



OJTとして大学生も指導に入る



iPadでアプリも使用した3学期の平仮名ぐんぐん教室

【2年生 読み書き名人プロジェクト】

| 日時 | 全体指導・調査 | 読み書き困難児への指導 |
|-------|--|---|
| 年間通して | 読み書き名人プリント | |
| 夏季休業中 | | 読み書きワークショップ (20名) |
| 6月～2月 | 給食準備時間を利用した「ランチタイム教室」 (「よく見る・聞く勉強」「MIM アセスメント」) | まなびの部屋での個別指導 (3名) (MIM デジタル・iPad のアプリを使った指導) |

年間通した読み書き名人プリント



iPadを使った個別指導



年間通したランチタイム教室

4 子どもたちへの効果

1 【1年生 平仮名ぐんぐんプロジェクト】

(1) 定点調査の変化

① グッドイナフ人物画検査

| | 学年平均 MA |
|----|---------|
| 6月 | 5.53歳 |
| 2月 | 6.08歳 |

毎朝の姿勢体操をはじめ、体づくりに取り組んできた成果として、学年としても伸びがみられる。8か月間に7か月分の学年平均値の伸びとなっているが、中には10か月分伸びたクラスもあった。自然発達以上の指導の成果だったと言える。

また、ここには挙げないが、「耳や鼻、首、肩などの部品の出現率」についても調査しており、2割程度出現率が向上していることから、自分の体への認識が進み、よりコントロールできる体に近づいていると考えられる。

(書字姿勢の変容については現在分析中)

② MIM アセスメント 学年平均値

| | 総合得点 | テスト1 | テスト2 |
|-----|-------|-------|------|
| 11月 | 15.62 | 9.23 | 6.47 |
| 2月 | 18.02 | 10.85 | 7.58 |

全クラスで伸びている。昨年度の1年生の学年平均と比較しても、総合点で4点上回っており、MIMの基準に照らすと、およそ2ndステージであると考えられる。

(2) 読み書き困難児の変容

| 特殊音節の種類 | 書き正答率 |
|---------|-------|
| 長音 | 73% |
| 拗音 | 100% |
| 拗音音 | 68% |
| 促音 | 93% |

購入したiPadに「音韻認識力をはぐくむひらがなトレーニング」や「Dropkit」等のアプリを入れ、3学期は毎日5分間の学習を続けた。アプリでは音が確認できるので、子どもたちは何度も音を聞くボタンを押して、絵を見ながら文字を当てはめていた。

指導の最後に、言葉の書きを確認したところ、左表のような結果であった。指導前は書くことを嫌がる子どもが多かったことや、書きに特化した練習をしていないことを考えると、読めるようになったことで書きの向上にもつながったと思われる。

2 【2年生 読み書き名人プロジェクト】

(1) MIM アセスメント学年平均値

| | 総合得点 | テスト1 | テスト2 |
|----|---------|---------|---------|
| 6月 | 24.884 | 14.04 | 10.774 |
| 2月 | 37.4321 | 21.5624 | 15.9115 |

2年生は、昨年次(1年生)にはMIMの得点は高くなかったが、「ランチタイム教室」での指導を年間継続することで得点が向上、学年平均は2ndステージを上回っている。また、MIM標準得点表では6月と2月では総合得点で8点アップとなっているが、本校では約13点アップしており、高い伸び率と言える。

また、iPadを使った個別指導児も、文字や言葉の理解が進んだことで教室での学習にも落ち着いて向かうことができつつある。

3 総括

学級や学年を構成する子どもたちには実態の幅があり、小1であれば理論上4歳から8歳の開きがあるといわれている。この開きのまま(多層のまま)全員の底上げを図ることを目指してきた。

この助成により、iPad2台とMIMデジタル版、そしてiOS対応の有料アプリを購入できた。このことにより、1年生全員が、そして読み書き困難児はさらに個別に、文字習得に必要な3つの要素である「音・意味・形」を常に確認しながら学ぶことができた。そして、低学年期=2年の終わりまでに「低次の読み書きの自動化」を図っていくことで、中学年以降の二次的な不適応行動の予防につながる道をつけていければと考えている。

今後、さらに詳細にデータを分析し、課題も含めたこの結果を松江市教育委員会はじめ松江市内外へ発信し、リスクマネジメントに活かしていきたい。